

自主行事・復興支援プログラム「東峰村立東峰学園・小学部」

2017. 11. 24

2017年7月、甚大な被害をもたらした九州北部豪雨の爪あとが依然として痛々しく残る朝倉地域の東峰村立東峰学園にて、1・2年生31名を対象に復興支援プログラムを実施した。

実施内容は自然の素材を生かした「ネイチャークラフト」。自然の怖さを目の当たりにした子供たちに、自然の素材の温かみに触れることで、自然への愛着を取り戻し、自然を大切にする心を育むのが目的。



既に各方面から様々な援助の手が差しのべられ、この日も、青森の同名の小学校から25ケース・1000個以上のリンゴが送られてきた。子どもたちはそのお礼のDVD作りで慌ただしい中、ほぼ予定時間通り、多目的ホールに集合。テーダマツやダイオウシヨウの大きなマツボックリに様々な飾りつけを施したクリスマスツリー作りに取り組んだ。

1年生と2年生は合同で4班に分かれ、各々セッティングされた場所に着き、アイスブレイクと軽い準備体操の後、注意事項や作り方の指導を受けて作業開始。丸伐りカットされた土台と、どんぐりやその帽子(殻斗)、様々な木の実、雪に見立てた綿などを取り皿に盛り、グルーガンでデコレートしていく。中にはグルーガンでの火傷を嫌い、木工ボンドでじーっとくっつくのを待つ児童もいて、つつい手を出してしまう。

元々、同校は小中一貫校で1年生から9年生が在籍していて、日頃から接する機会も多いため、1年生と2年生が合同になっても何の隔たりもなく、仲良く作業に打ち込める環境にある。かといって2年生が過剰に1年生の面倒を見るというのではなく、お互いを尊重し合っているようにも見えた。むしろ、こちらが大げさに反応してしまったことに恥ずかしさを覚えてしまう。



東峰村は森林率85%と県内トップを誇り、豊かな自然に囲まれた地域にありながら、皮肉にも、その自然の猛威に襲われた。子供たちの心もさぞ疲弊しているだろうと、言葉を選びつつ接していたが、最後の仕上げの所で、担任の先生の「時間です」の声にみんな「えー」と不満顔。実はその時間は予定の5分前だったため、「5分延長します」と云ったら大歓声。その純朴でひたむきな子供たちに、こちらが癒される思いで、実施してよかったと思える瞬間であった。東峰学園の子供たち、本当にありがとう。

スタッフ：石橋、西田、轟、諸石（報告：諸石）